

クロベ *Thuja standishii* (GordOn) Carriere

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。温帯性の樹木で、山間湿地の自然植生を特徴づける種でもある。愛知県では生育地、個体数ともに極めて少ない。

【形態】

常緑性の高木。幹は高さ約 30m、直径約 1m になるものもある。樹皮は赤褐色、縦に裂け、薄くはがれる。葉は鱗片状で十字対生し、長さ 2~4mm、鈍頭、葉裏に灰白色の気孔群があり、ヒノキに似ているがやや大きくて厚みがある。花期は 5 月、雄花は小枝の端に 1 個つき、球形~楕円形、長さ 1.5~2mm。雌花も小枝の端に 1 個つき、卵円形である。毬果はその年の秋に熟し、広卵形または楕円形、長さ 8~10mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根（芹沢 77990, 2002-8-25）、4 津具（芹沢 78755, 2003-8-24）。愛知県では、茶臼山周辺の限られた範囲に生育しているだけである。

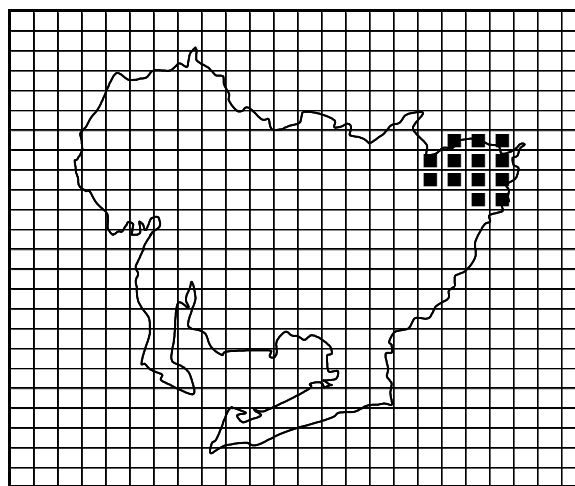
【国内の分布】

本州および四国の山地に分布するが、中部地方以北の日本海側に多い。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

他の樹木が育ちにくい、やせた尾根、谷沿いの岩崖地、湿地周辺の過湿地などに生育していることが多い。愛知県の自生地は湿地である。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地	○			
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

生育範囲は狭く、大型の樹木であるだけに成木の個体数も少ない。現地の自然林は、過去の牧場開発、観光開発、拡大造林などによって狭められ、現在は僅かに残存するだけである。

【保全上の留意点】

東三河のなだらかな山陵部の湿地林は、拡大造林や牧場造成などにより、詳細な調査が行われなままほとんどが消滅している。現在残存している湿地林は、特に注意して保全する必要がある。また、茶臼山周辺は、自然とのふれあいの場を確保するという意味でも、これ以上の開発を避けるべきである。

【特記事項】

ネズコとも呼ばれ、グリーンデータブックあいち 2017 ではこの名で収録したが、やはりクロベを使う方がよさそうである。

【関連文献】

保木本Ⅱ p.410, 平木本Ⅰ p.20, 平新版Ⅰ p.41.